

特定非営利活動法人八丈島あそびと文化のNPOあびの実

設立趣旨書

八丈島おやこ劇場「あびの実」は、1987年に誕生して以来27年間、舞台芸術鑑賞と自主的な文化活動を2本柱に活動を続けてきました。設立当時の八丈島の文化環境は本土との格差があったため、「子どもたちに文化的体験を」と願う親も多く、「おやこで生の舞台を楽しむ」という「あびの実」の活動は、島の子育て世代の多くの支持を受け、発展していきました。

現在、島の文化環境は、設立当初とは比較にならないほど豊かになってきています。文化団体からの要望を受け「あびの実」が中心となって始めた「文化フェスティバル」は、年に一度の新春の催しとして島に欠かせない行事になりました。地域で文化活動を行う団体は50近くあり、昨年には八丈島文化協会が発足。そして、「あびの実」をはじめとする多くの文化団体が設立を要望してきた念願のホール（八丈町多目的ホール「おじゃれ」）が、今年8月に開館しました。「あびの実」は、このような島の文化環境の発展の一翼を中心的に担ってきたと自負しています。

一方、島に住む子どもたちの「育ちの環境」に目をむけたとき、新たな課題が見えてきました。現代の日本は、子どもたちが心豊かに成長していくための環境が整っているとは言い難い状況です。子どもたちはデジタル化された社会の中で育ち、遊びも、ゲームやテレビといったバーチャルなものが主流です。また、核家族化と都市化の影響で、異年齢の集団で遊ぶ機会や親以外の大人と触れ合う機会が減っています。地域の大人たちに見守られながら、異年齢の仲間との遊びを通してさまざまな体験を積んでいった昔の子どもたちと比べ、現代の子どもたちは、近くにいる大人が意識的に環境を整えなければ、文化芸術や遊びを含むさまざまな「体験」や「人との関わり」を経験することができなくなってきています。そのような社会状況は、自然が豊かで、地域のつながりが都会より色濃く残っているここ八丈島も例外ではありません。

島の子どもたちが心豊かな成長を育むための環境を作っていくことこそが、これからの「あびの実」に課せられた使命ではないか。そう考え、「あびの実」は、八丈島の子どもたち全体にむけた活動を行うための団体として、新たなスタートを切ることになりました。

新しい「あびの実」はこれまでの実績をもとに、1人でも多くの島の子どもたちに文化・芸術の鑑賞や体験の機会を作っていくための活動を行っていきます。また、子どもたち一人一人の個の確立を助け、コミュニティの中で思いやりを持って、人と共に楽しく時代を生きていく、力、感覚、感性を持てるような活動を新たに提案していきます。具体的には、地域の大人や異年齢の仲間とともに、八丈の自然や文化に親しみ、現代の子どもたちに足りないさまざまな「体験」を継続的に積み重ねていく活動を実施します。

年代の違うさまざまな人と関わり、文化芸術や遊びを含むさまざまな体験を重ねることは、子どものその後の人生の大きな支えになるとともに、そこに関わる大人の活性化にもつながると私たちは考えます。めざすのは、子どもと大人が育ちあう環境です。

八丈島の子どもたちのほとんどは、高校卒業と同時に島を離れます。島を離れた子どもたちが、島で生まれ育ったことを誇りと支えにしてその後の人生を生きていけるような地域をめざして、島の他団体や地域、行政と手を取りあい、島のすべての子どもたちにむけた活動を行っていくために、任意団体としての八丈島おやこ劇場「あびの実」を発展的に解消し、その組織、運営、資産等を整理し、営利を目的とせず、公益性及び社会責任性を明確にした組織として、ここに、特定非営利活動法人八丈島あそびと文化のNPOあびの実を設立いたします。

平成25年12月14日

住所又は居所 東京都八丈島八丈町大賀郷1082番地2

設立代表者 氏名 菊池洋子 印